

様式第5号（第10条関係）

**パブリックコメント実施結果報告書**  
**【案件名：第2次つくば市グローバル化基本指針（案）】**

令和5年（2023年）3月  
つくば市市長公室国際都市推進課

## ■ 意見集計結果

令和4年 12 月2日から令和5年1月4日までの間、(第2次つくば市グローバル化基本指針(案))について、意見募集を行った結果、2人から5件の意見の提出がありました。これらの意見について、適宜要約した上、項目ごとに整理し、それに対する市の考え方をまとめましたので、公表します。

提出方法別の人数は、以下のとおりです。

提出方法	人数(団体を含む。)
直接持参	0人
郵便	0人
電子メール	0人
ファクシミリ	0人
電子申請	2人
合計	2人

## ■ 意見の概要及び意見に対する市の考え方

### ○ つくば市の現状と課題 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	・在留資格別にみると留学生、研究生が多いが、技能実習生なども増えているということ踏まえ、住民登録から2、3ヶ月のオリエンテーションは必要なのではないかと思えます。これは、常総市などでおこなっている試みで、p22のアンケート結果からもわかるように、公的なサービスの受け方、仕組み等は国によって大きく異なることから、こうしたオリエンテーションは必須であると思われれます。最初から不要	1件	本指針では外国人市民への生活サポートの充実の詳細な取組については記載をしておりませんが、転入者向けのオリエンテーションの開催やそのための人材の育成は必要であると考えており、御指摘の内容は別途作成を進めているアクションプランの参考にさせていただきます。

	<p>な場合は断るはずなので、最初にそうした入口があることを示すのは行政の役割。実施にあたっては、一方的に情報を伝えるのではなく、どんな情報がほしいかと聞きながらおこなっていく、これは行政マンだけでなく、ボランティアも養成しておこなっていく必要があると思います。</p>		
2	<p>・日本語学習支援が必要な子どもが300名近くとされていますが、その在籍校はどうなっているのでしょうか。1、2名では加配がきかないことを考えると、いろいろ事情はあっても集中して住んでいただく、また住民登録前にある程度そういった情報にアクセスできる必要があります(実際、他自治体では加配がないことから母子で本国に帰ってしまう例も散見しています)。また、学校にいてもあまりよい結果が出ないことから、特に出身国によっては女子にはもう就学させない、ということも起こりがちです。支援そのものも、小学校低学年のうちはなんとかなりますが、日本の中学校の学習の厳しさは、それまで日本語支援が不要だった生徒でも厳しいと聞きます。大学入試に帰国子女選抜枠が昔からあるように、高校などにおいてもそうした枠が必要、そのための学習</p>	1件	<p>日本語学習支援が必要な児童 ・生徒は、義務教育学校を含む45校のうち25校に在籍しており、そのうちの17校は在籍者数が10人未満となっています。</p> <p>外国籍児童の保護者から居住地区や転入先の御相談があった場合には、外国籍児童が多く在籍している学校や各学校の日本語学習支援の情報等をお伝えし、保護者やお子さんの意向にできるだけ沿った学校へ通えるよう、きめ細かく対応している状況です。</p> <p>また、御指摘の通り、近年は高校受験を希望する外国籍生徒が増えていることから、つくば市国際交流協会と連携して高校進学ガイダンスを実施しています。また、外国籍のこどもの小学校入学への不安や相談に対応するため、未就学児に対する小学校入学に向けたガイダンスなども実施しています。</p> <p>今後はつくば市国際交流協会と連携しながら、学齢期を過ぎたこどもに対しても、進学や就</p>

	<p>ができるようにつくば市が先頭を切った提案、施策を取る必要があるかと思ひます。</p>		<p>職等のニーズに合わせた日本語学習支援を新たに実施していきたいと考えています。</p>
3	<p>・外国人に対するアンケートですが、住みやすい、住みにくい、にはどのような項目が挙げられていたのかも少し知ることができたら(アンケート原紙を資料として添付していただくなど)イメージしやすかったかと思ひます。</p> <p>また、このアンケートの38%が「漢字でレポートを書ける」と回答していることから、かなり日本語能力は高い層が回答していると思ひれます。その層にして、市の情報がわかるという人は7割にとどまっているわけですから、全体としてはもっと届いていないと思ひれます。</p> <p>また、行政としてはp23にあるように、何かあった時に「国際交流協会に聞く」「広報つくばを参考にする」と答えたのがともに1%であることを考え、どうしたら情報が届くかの知恵を絞りたいところです。</p> <p>(この選択肢に「つくスマ」がないのは、まだ導入前だったからでしょうか。現在の利用状況がどうなっているのかも知りたいところです)</p> <p>いろいろ書きましたが、「もとから日本語も英語もできる方に</p>	1件	<p>御意見を踏まえ、つくば市外国人市民意識調査については、調査結果原本を参考資料として指針本編に添付します。</p> <p>本調査は、令和3年5月1日現在でつくば市に住民登録のあった18歳以上の外国人市民全員を対象に実施しましたが、回答いただいた方の多くはある程度日本語の分かる方でした。それにも関わらず、市からの情報が分からない方や市からの情報提供媒体を「知らない」と回答した方が一定数いらっしゃったことから、御指摘の通り、市全体では市からの情報を得られていない方はもっと多いと考えられます。なお、本調査実施時にはまだ「つくスマ」は導入されていなかったため、選択肢には入れておりません。令和5年1月16日現在、つくスマのダウンロード数は、以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語＝11,501人</li> <li>・英語＝214人</li> <li>・中国語＝18人</li> <li>・韓国語＝7人</li> </ul> <p>また、ダウンロードされた11,740人のうち、「外国人向けの情報が必要」にチェックを入れた方は1,389人となっています。</p>

	<p>ターゲットを当ててるのではなく、自分かもし一言もわからない地域に住むことになったら何が必要だと思おうか」を考え、どの人にも温かく感じられるつくば市になればと思います。</p>	<p>情報提供媒体の周知強化は喫緊の課題であり、現在作成中のアクションプランにも情報発信の強化に資する取組を盛り込みたいと考えています。外国人相談窓口や国際交流拠点等も情報提供の場として活用しながら、言語や国籍に関わらず、すべての人にとって住みやすいグローバル都市の実現を目指して取組を進めていきます。</p>
--	--	---

○ 第2次つくば市グローバル化基本指針の方向性 について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	<p>・p41 「到達目標」という用語は教育分野で使われるもの。このようなところで使う用語ではないと思いますが？</p>	1件	<p>「到達目標」という用語は、全国の自治体の総合計画等でも使用されており、本指針において、つくば市が到達を目指す目標であることから「到達目標」と表記しています。</p>
2	<p>・p41 下から3行は、「グローバル化のゴールはグローバル都市である」と言っていることになる。これでは意味不明だ。</p>	1件	<p>御指摘を踏まえ、<u>つくば市が目指す本当の意味でのゴールは、</u>に修正します。</p>

■ 修正の内容

○ 第3章 つくば市の現状と課題 について

修正前	修正後
<p>・p16 グラフ中の表記 <u>外国にルーツをもつ</u>児童・生徒</p>	<p><u>外国につながる</u>児童・生徒</p>
<p>・p18 以降 アンケート結果中の「<u>N</u>」の表記</p>	<p>すべて「<u>n</u>」に修正するとともに、18ページに「<u>n=各設問における回答者</u>」</p>

	<u>数」と追記しました</u>
--	------------------

○ 第4章 第2次つくば市グローバル化基本指針の方向性 について

修正前	修正後
p41 下から3行目 「 <u>グローバル化</u> 」の本当の意味での ゴールは、	<u>つくば市が目指す本当の意味での</u> ゴ ールは、
p43 2 ゴールの実現に向けた3つのテー マと基本施策／(2) 3つのテーマに 紐づく基本施策／②国籍を問わず、 市民が持ち味を生かして活躍できる 環境」を目指すための基本施策  市内及び国内で働きたいと望む <u>外国</u> <u>人留学生等</u> の就業のチャンス	市内及び国内で働きたいと望む <u>留学</u> <u>生等</u> の就業のチャンス

※パブリックコメントによるものではありませんが内容を修正しました。

※このほか、単純誤記の修正もしました。